

《カトリック大和高田教会 お知らせ》

2025年3月30日

典 礼 暦	日 時 など
四旬節第4主日	3月30日 (日) ミサ 8:30
	4月3日 (木) ミサ 10:30
	4月5日 (土) ミサ 8:00
四旬節第5主日	4月6日 (日) ミサ 8:30
	4月10日 (木) ミサ 10:30
	4月12日 (土) ミサ 8:00

《2025年の聖週間》

- 4月13日(日) 受難の主日(枝の主日) ベトナム語ミサ 15:00
- 17日(木) 聖木曜日(主の晩餐の夕べのミサ) 20:00
- 18日(金) 聖金曜日(主の受難の祭儀、大斎小斎) 20:00
- 19日(土) 復活の主日(復活の聖なる徹夜祭ミサ) 20:00
- 20日(日) 復活の主日(日中ミサ) 8:30

【京都司教区】

◎2025年3月1日をもって、教区からお願いした新型コロナウイルス感染症についての措置を、すべて解除し、教会活動を2020年1月以前の状態に戻すこととします。

【大和高田教会の対応】

- ・マスクの着用やアルコール消毒の対応は各自の意向にお任せします。(アルコールスプレーは従来通り設置しますので、ご利用いただけます)
- ・司祭は聖体拝領前に手指のアルコール消毒を継続します。
- ・ホスチアの準備は、典礼部が行います。
- ・聖水盤をご使用いただけます。(典礼部が準備します)

◎「教区時報」「心のともしび」4月号」が届いています。お持ち帰り下さい。各自のボックスには入れません。

【奈良ブロック】

4月13日(日) 受難の主日(枝の主日)・ミサ予定

- | | |
|--------------|---------------------|
| ■奈良教会 11:00 | ■大和高田教会 15:00 |
| ■登美ヶ丘教会 9:00 | ■大和八木教会 11:00 |
| ■富雄教会 11:00 | ■西大和カトリックセンター 14:00 |
| ■大和郡山教会 9:00 | ■御所教会 9:00 |

【大和高田教会】

◎4月6日(日)主日ミサの司式は、大塚喜直司教様です。

◎本日(3月30日(日))ミサ後、ベトナムコミュニティの皆さんが、「十字架の道行き」をベトナム語で行います。

皆さん、ご参加下さい。

- 本日(3月30日(日))ミサ後に典礼部会を開催いたします。聖週間の典礼の役割分担などについての打ち合わせを行います。部会メンバーの方は、必ずご出席をお願いいたします。

- 主日ミサ後に『聖年の祈り』を全員で唱えます。

◎「聖書の分かち合い」(Sr.ローマ)：4月3日(木)ミサ後

◆ 教会掃除当番

4月6日(日)ミサ後：奉仕日(全員)、
ワックス掛けを行います

4月13日(日)ミサ後：D地区

本日の聖歌

入祭	典	1 8 3	われらはシオン で神をたたえ	奉納	典	6 3	神は恵みと あわれみに満ち
答唱	プ	{聖書と典礼}		拝領	典	1 6 7	わがこころ 喜びに
詠唱	プ	{聖書と典礼}		閉祭	典	3 8 3	イエズス キリストへ

【典：典礼聖歌、聖：カトリック聖歌集、平：平和を祈ろう、プ：プリント】



カトリック
奈良ブロック
ホームページ

3月30日 四旬節第4主日 ルカ15章1～3、11～32節 振り返れば父がいる

今日の福音はイエスのたとえ話のなかでもよく知られている「放蕩息子」のたとえ話です。イエスの話を聞くために徴税人や罪びとが集まっていました。それを非難したファリサイ派の人々や律法学者に向けて、「なくした銀貨」「迷った羊」のたとえ話とともに、イエスが語られたものです。

このたとえ話に出てくるのはお父さんと息子兄弟の三人です。弟のほうは自分がもらうことになっている財産を先に要求します。いわゆる生前贈与ですが、これはお父さんの意思ではなく弟息子の希望です。これは、「お父さんがいつ死ぬかわからないから、ぼくがまだ若いうちに遊ぶためのお金をください」と言っているようなものです。お父さんは財産を与えますが、心の中では悲しさと情けなさでいっぱいだったのではないのでしょうか。そのあと息子は家を出て町に行きます。そこで放蕩の限りを尽くしたということです。昔、太田裕美さんの「木綿のハンカチーフ」という歌がありました。田舎の彼女のもとを離れて都会に就職した彼氏が華やかな都会の生活に染まって帰れなくなるという歌詞でした。その彼氏は放蕩はしていなかったでしょうが、私はその歌を思い出しました。しかし、聖書の息子のほうは故郷に帰ることにします。それはその地方で起こった飢饉がきっかけでした。お父さんのところに帰れば食べることができる、というどちらかという自分の都合からでした。さすがにそれを自覚しているので、雇い人として帰ることにしたのです。お父さんは帰ってくる息子を見つけて遠くから駆け寄ります。ということは、「今日は帰ってくるかもしれない」と毎日のように町のほうを眺めていたということでしょう。そして帰ってきた彼を自分の息子として受け入れ、宴会を開きました。

「お父さん、その前にまず叱らないと！」と思いますよね。けれども、このお父さんは全面的に受け入れ、帰ってきたことを喜びます。つまり、天の父は悔い改めることを待ち続け、悔い改める人を喜んで迎え入れてくださるのです。

このたとえ話の続きがあるとすれば、このあとお兄さんはどうしたのでしょうか。お父さんはお兄さんも考え直すことを望んでいるようです。ファリサイ人や律法学者は、自分たちは立派な人間で徴税人や罪びとは神から遠い存在だと見下していました。最後に登場するお兄さんは、彼らの立場を表しています。イエスは、「あなたたちが神の側にいると考えるならば、神といっしょに悔い改める人を喜んで迎えるべきではないか」といいたかったのでしょう。

「悔い改め」は、息子の言葉にあるように、「天のお父さん、わたしはあなたを悲しませてしまいましたが、どうかあなたのもとに帰らせてください」と願うことです。天の父はたとえ話のお父さんのようにいつも待っていてくださる方ですから、振り返ったときにはそこにおられます。弟の立場であっても、兄の立場であったとしても。 (柳本神父)